

第1章 将来都市像

住んでよし 働いてよし 訪れてよしの生涯を完結できる空の港まち なりた

「住んでよし」では、子どもからお年寄りまでが安心して住めるまちを、「働いてよし」では、快適に働くことのできる環境が整ったまちを、「訪れてよし」では、もてなす心あふれるまちを実現することとします。

また、生涯を通じて、笑顔でまちを楽しみ、暮らし、そして市民一人ひとりがまちの未来に輝かしい可能性を感じられるような「生涯を完結できる」まちを目指します。

「空の港まち」には、成田国際空港を擁している日本の空の表玄関としての特色を踏まえ、国内外の人・物・情報が行き交い、にぎわう港町というイメージを込めています。

基本構想

第2章 まちづくりの基本姿勢

まちづくりの基本姿勢

「住んでよし 働いてよし 訪れてよしの生涯を完結できる空の港まち なりた」という将来都市像の実現を目指し、未来を見据えた「次世代に誇れるまちづくり」に向けて、次の3つの方向性を掲げてまちづくりを推進します。

(1) 若者や子育て世代に魅力のあるまちづくり

少子高齢化が進展し、働き手である生産年齢人口が減少することは、税収の減少や社会保障費などの増大にもつながることから、これからは、次代のまちづくりの担い手である若者や子育て世代にとって魅力的なまちづくりを進めていくことが大切です。

そのためにも、子育て支援策の充実はもとより、大学誘致や地域資源を活用した観光振興、スポーツツーリズムの推進などを積極的に推し進めていくとともに、それらまちの魅力を積極的に発信するシティセールスも併せて実施することで、若者が集う活気あふれるまちづくりの実現につながり、市への大きな経済効果も期待されます。

(2) 医療・福祉の充実したまちづくり

すべての市民が、生まれてから亡くなるまでの生涯を通じて、健康で生き生きと安心して暮らせるまちの実現に向けては、医療・福祉の充実が大切です。

そこで、医師や看護師の確保などの地域医療対策を推進していくとともに、高齢者や障がい者が安心して暮らすことができるよう、介護・福祉サービスの充実を図ります。

(3) 空港と共に発展するまちづくり

日本で最大の国際航空ネットワークの拠点である成田国際空港が立地していることの効果を最大限に引き出し、「世界にひらかれたまち」として、まちの活性化と豊かな暮らしをより推進していく必要があります。

そのためにも、空港の機能強化に貢献していくとともに、国家戦略特区における規制緩和や首都圏中央連絡自動車道、北千葉道路などの広域道路ネットワークを活用し、成田国際空港周辺に、物流・医療関連などの企業誘致を促進して、安定的な雇用創出を図るなど、空港と空港周辺地域が持つポテンシャルを十分に活用したまちづくりを行います。

第3章 土地利用の基本方向

1. 中心市街地等の都市機能の充実

少子高齢化の進展により、都市機能の効率化が求められていることから、中心市街地など拠点となる地域では、公共施設、商業施設、医療施設などの都市機能の充実を図り、それら地域への居住を促進します。

2. 地域特性を生かした土地の利用

集約的なまちづくりを進めるとともに、それぞれの地域で核となる拠点施設を生かし、地域特性に応じた土地利用を進めます。

なお、各地域で不足する公共公益施設などは、各地域を結ぶ公共交通ネットワークの充実及び活用により、互いの地域が補完し合う相互補完型のまちづくりを推進します。

基本構想

第4章 将来都市像実現に向けた基本方向

1. 安全・安心でうるおいのある生活環境をつくる

誰もが安全、安心に暮らし、より多くの市民が住み続けたいと思えるような、地域の特性を生かした住みよいまちづくりの実現を目指します。

(1) 安全・安心に暮らせるまちづくり

防災・防犯意識が高まる中、誰もが安全で、安心して暮らせるよう、災害対策や防犯対策を充実させていくことが大切です。

そのため、地域と行政がそれぞれの役割と責任のもとに相互に連携して、自然災害や犯罪、事故などから市民を守り、安全・安心な生活を送ることができる環境づくりを進めます。

(2) 空港と共生し安心して暮らせるまちづくり

成田国際空港を擁する本市にとっては、地域と空港とが共生していくことが大切です。

そのため、空港周辺地域における生活環境の保全に努め、騒音地域においても安心して暮らせるよう航空機の騒音対策を実施します。

また、空港との共生の理念のもとで、空港周辺地域の地域振興を推進します。

(3) 快適でうるおいのあるまちづくり

いつまでも住み続けたいと思えるうるおいのあるまちづくりを進めるためには、市民一人ひとりが快適に暮らせる生活環境をつくることが大切です。

そのため、身近な生活環境における自然や景観を保全し、快適な市民生活を支える公園や緑地などを整備します。

また、上下水道や環境施設などの供給処理施設の整備や資源循環の取組みを推進するとともに、市民の環境活動や環境保全対策を進めるための仕組みづくりを進めます。

基本構想

2. 健康で笑顔あふれ、共に支え合う社会をつくる

本格的な少子高齢化社会の到来に備え、誰もが生き生きとした生活を送れるよう、みんなで支え合う福祉と健康づくりの充実したまちを目指します。

(1) 安心して子どもを産み育てられるまちづくり

子育て世代が、安心して子どもを産み育てられる環境を整えるためには、家庭だけでなく、行政を始めとした地域全体で子育てを支えていくことが大切です。

そのため、保育環境の整備など、子育てと仕事の両立支援や子育て家庭の日常生活全般にわたるサポートといった子育て支援策の充実を図ります。

(2) やさしさと思いやりに満ちた支え合いのまちづくり

誰もが住み慣れた地域で、共に支え合って生活する社会を実現するためには、持続可能な社会保障制度のもとで充実した福祉施策の実現が大切です。

そのためにも、高齢者や障がい者が自分らしく安心して暮らせるような地域福祉体制を確立していくとともに、自立に向けたきめ細かな支援サービスを提供します。

また、生活を送る上で様々な問題を抱え、生活に困窮している人の生活の安定と自立を支援します。

(3) 健康で笑顔あふれるまちづくり

子どもから高齢者まですべての市民が生き生きとした生活を送ることができるよう、健康づくりを総合的、計画的に進めていくことが大切です。

そのため、医師や看護師の確保など地域医療体制を確立するとともに、市民が健康的な生活を送ることができるよう、予防接種や健康診査などの保健サービスや各種健康づくりを支援します。

基本構想

3. 地域文化を生かし、未来を担う心豊かな人材を育む

成田の国際性や伝統文化といった地域文化を生かし、子どもから大人までが共に心豊かな成長を遂げるまちを目指します。

(1) 心豊かな人を育むまちづくり

将来を担う子どもたちや若者が自ら考え、社会の変化に柔軟に対応できるよう、学力・体力・道徳心・社会性などを向上させることが大切です。

そのため、学校における教育内容の充実を図るとともに、教育環境の整備を進めます。

また、学校・家庭・地域の連携・協力による青少年の健全育成を支援します。

(2) 学び、文化を育て、スポーツを楽しむまちづくり

生きがいやゆとりを持った生活を送るためには、生涯を通じて学び、文化芸術やスポーツを始めとする様々な活動に親しむことが大切です。

そのため、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツの更なる振興や生涯学習・文化活動の機会の充実に努めます。

また、長い歴史と文化によって育まれた成田の伝統を大切にし、市民一人ひとりが成田に誇りや愛着を持てる取組みを推進します。

(3) 国際性豊かなまちづくり

成田国際空港を擁するまちとして、市民が国際性や世界的視野を育むことができるよう、空港の立地を生かした国際性豊かな取組みを推進することが大切です。

そのため、国際交流イベントや交流事業など多種多様な方法により国際交流を図ることで、外国人と互いに理解し合い、共に暮らしやすいまちづくりを推進します。

また、市民の国際理解を深めるため、英語教育や国際理解教育、異文化体験事業の拡充など、国際的視野を育むような学習機会の充実に努めます。

基本構想

4. 空港の機能を最大限に生かし、魅力的な活気あふれる都市をつくる

空港が立地していることの効果を最大限に引き出し、市内外の交通アクセスの向上や機能的な都市基盤の整備を進めることで、魅力的な活気あふれるまちを目指します。

(1) 空港を生かした活気あふれるまちづくり

本市が今後とも持続的な発展を遂げるには、成田国際空港の機能を最大限に生かし、まちの活性化とより豊かな市民生活を推進していくことが大切です。

そのため、空港の国際競争力を高め、多くの波及効果を得られるように、空港機能の拡充を促進します。

また、航空・観光ビジネスの強化や国家戦略特区を生かした施策の実現など、空港を活用した魅力あるまちづくりを推進します。

(2) 魅力ある機能的なまちづくり

誰もが快適で住みやすいまちを実現するためには、機能的で利便性の高い都市基盤を整備することが大切です。

そのためにも、計画的なインフラ整備を進めるとともに、公共交通ネットワークの充実を図り、市内外の交通アクセスの向上を目指します。

また、大学誘致などにより、若者が集う、魅力あるまちづくりを進めます。

基本構想

5. 活力ある産業を育て、にぎわいや活気を生み出すまちをつくる

産業を活性化させることで、多くの人が集まり、にぎやかで、みんなが生き生きと豊かな生活を送ることができるまちを目指します。

(1) 地域資源を活用したにぎわいのあるまちづくり

観光を産業振興の機軸として、多方面への波及効果を生み出すためには、既存の観光資源の機能強化や新たな観光資源の発掘が大切です。

そのため、成田国際空港、成田山新勝寺を始めとした歴史的観光資源、恵まれた自然や風景などの地域資源を生かし、観光客にとって魅力ある観光地づくりを推進します。

(2) 元気な農林水産業を育むまちづくり

生産性の高い安定した産業を目指すに当たって、農林水産業が果たす役割は大きく、活力ある農林水産業を育てていくことが大切です。

そのため、農業の生産性・流通性を高めるとともに、農業従事者の高齢化対策、担い手支援策などの充実を図り、農業の持続的発展に努めます。

また、森林機能の保全や栽培漁業、畜産業の振興を支援します。

(3) 商工業が活力をもたらすまちづくり

地域に活力を与え、安定した雇用を生み出すなど、地域経済の活力向上を図るには、商工業の発展が大切です。

そのため、中小企業や商店街への活性化支援などに取り組むとともに、新たな時代にふさわしい産業・人材の育成や戦略的な企業誘致を推進します。

また、流通形態の多様化に対応する卸売市場の機能強化にも積極的に取り組みます。

基本構想

6. 市民サービスを充実させ、持続可能な自治体運営を行う

限られた資源を最大限に有効活用し、市民と行政が共に、より良いまちづくりに向けて協働するまちを目指します。

(1) 市民が参加する協働のまちづくり

協働のまちづくりに向けては、地域の力を最大限に発揮し、共に支え、協力し合う地域づくりを進めていくことが大切です。

そのため、コミュニティ活動や市民活動への支援を進めていくとともに、まちづくりへの市民参加の機会を確保し、市民協働の体制づくりを推進します。

(2) 経営的な視点に立った効率的なまちづくり

持続可能なまちづくりを推進するためには、市民ニーズに適合した行政サービスの提供や、財政の健全化に向けた財源の確保と経費の節減を図ることが大切です。

そのため、新たな財源確保策を講じるとともに、限られた経営資源の有効活用を図ることで、最小のコストで最大の効果を上げることを基本方針として行政経営を進めます。

また、積極的な情報公開や市民ニーズの的確な把握・反映に努め、市民満足度を重視した行政運営を行います。